

## 2014 年研究大会 10 月 4 日(土)・5 日(日)に 岡山大学にて実施 自由論題報告募集

2014 年の研究大会は、10 月 4 日 (土)・5 日 (日) に岡山大学津島キャンパス (岡山県岡山市) にて実施されます。引き続き、JSSEES との合同大会となり、今回はロシア・東欧学会の大会開催校が担当します。研究大会の情報に関しては、随時、学会ウェブサイトを通じてご案内いたしますのでご確認ください。

### 1. 共通論題テーマ:「ウクライナ危機をめぐる国際関係(仮)」

ウクライナ危機が深刻さを増している。EU との連合協定調印問題を切っ掛けに、昨年 11 月末にウクライナで始まった反政府デモが、本年 2 月に 100 名を超える死者という惨劇に至り、クリミアのロシア連邦への帰属を経て、現在ウクライナ東部と南部で政府軍と親ロシア系武装勢力の間で戦闘が続いている。本年秋の研究大会は、新版ウクライナ地図、さらには新版広域ヨーロッパ地図を掲げての大会となるのであろうか。2014 年度大会は、このウクライナ危機をめぐる国際関係について多角的に分析し、その全体像を明らかにすることを目的とする。

我々が直面しているウクライナ危機は、2003 年～04 年のバラ革命、コザック・メモランダム、オレンジ革命と、2008 年のロシア・グルジア戦争に続く深刻な国際危機であり、広域ヨーロッパやユーラシアの国際関係に計り知れない影響を及ぼすのみならず、多様な研究分野に様々な問題を投げかけている。例えば、経済分野では、ウクライナとロシアの経済構造や貿易関係に加え、EU の「東方パートナーシップ」が進める自由貿易圏 (DCFTA) とロシアが主張する関税同盟やユーラシア連合との関係、エネルギー問題などが主要課題として浮上している。また、グローバル化時代における経済制裁は果たして可能なのか、それは大国の侵略的意図に対し如何なる抑止効果を発揮できるのかも問われている。

他方、政治分野では、ウクライナの憲法問題、とりわけ大統領制と議会制、連邦制と分権化が論争点となっている。また、クリミア問題と関連して、トランスニストリア、南オセチア、アブハジア、ナゴルノ・カラバフ、コソヴォ、ボスニア・ヘルツェゴヴィナなど紛争地域の比較研究と、アイデンティティ政治やディアスポラ政治といった視点も欠かせない。さらに、EU とロシアという二つの極をめぐって、ウクライナ国内で政治・経済エリート、オリガキー、宗教界、エスニシティが繰り広げる諸関係の構造と、それらが国境を越えてロシアを含む旧ソ連圏諸国内で展開するトランスナショナルな構図も明らかにすべきであろう。また、オレンジ革命と今回のマイダン革命の連続性と非連続性の問題に加え、国内政治体制と外交の連動性、とりわけロシアの権威主義体制および民主化運動とマイダン革命とのトランスナショナルな関係にも目を向ける必要がある。加えて、ウクライナ東部と南部で起きている武力抗争は、そもそも内戦と捉えるべきなのか、それともロシアが背後で操る「新しい戦争」と理解すべきなのであろうか。

他方、安全保障分野では、グローバル化時代における地政学、勢力圏構想、軍事力の効用といった従来の諸課題の再検討が必要不可欠となった。また、プーチン体制下のロシア外交は 2007-08 年までに修正主義に転化し

たとえられるが、それは NATO や EU を中核とした冷戦後の欧州国際秩序故のことなのか、それともリーダーシップそのものに根ざすものなのか、換言すれば、プーチン大統領の外交・安全保障観によるものなのか。さらに、ウクライナのフィンランド化や中立構想、地域安全保障についても検討すべきであろうが、そこではヴィシエグラード・グループ(V4)、バルト海諸国理事会、バレンツ欧州北極理事会、GUAM、BSEC などの地域機構の経験が参考になろう。また、プーチン大統領のクリミア併合決定に際して、ロシア・グルジア戦争、イラン問題、シリア問題に対する国際社会の対応や、クリミアへの中国やトルコの関与は如何なる影響を及ぼしたのであろうか。

本大会第一部では、ウクライナとロシアを中心に政治および経済の次元から分析し、第二部では、欧州から北極海、さらには中国、アジア太平洋へと視点を広げ、ウクライナ危機をめぐる国際関係について議論を深めていきたい。

(2014 年研究大会企画委員長：六鹿茂夫 静岡県立大学)

## 2. 自由論題報告募集(6月30日締め切り)、若手会員への旅費等の支給継続

自由論題報告を希望される会員は、①氏名、②住所、③電話番号、④所属、⑤報告のタイトル、⑥報告要旨(約400字)を6月30日(必着)までに学会事務局へ、学会ウェブサイトのお問い合わせフォームまたはメールでお知らせ下さい。なお、現時点において大会プログラムの詳細は未定ですが、自由論題報告は研究大会2日目(10月5日)の午前中に予定されております。なお、応募者多数の場合は、理事会において人数調整を行う場合があります。

自由論題報告を行う若手会員への旅費等の助成は、2010年～2012年度までの3カ年の時限措置として実施し、3年間で11件の利用がありました。本助成制度の効果が認められること、若手研究者奨励基金に残額があることから、当面の間、延長されることとなりました。5万円を上限として、交通費、宿泊費、懇親会費などが助成の対象となり、飛行機を利用したパック旅行も適用されます。院生会員はもとより、専任・常勤職を持たない若手会員も対象となります。また、過去3年間に助成を受けた方も再応募は可能ですが、2013年～2015年度の間の利用は一回のみとなります。多くの若手会員の皆様のご利用をお待ちしております。

# 『ロシア・東欧研究』投稿募集 応募締め切りは9月15日

論文、研究ノート、書評の原稿を募集しています。応募締め切りは9月15日、原稿提出期限は11月末日です。研究大会における自由論題報告者のみならず、多くの会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。また、投稿時点において40歳未満の方は、自動的に若手研究者奨励賞(賞状、副賞5万円)の選考対象となります。執筆要領については、学会HPまたは学会誌巻末の「投稿規程・執筆要領」をご覧ください。

また、書評用の書籍は、事務局ではなく、以下の会誌編集委員会宛にご送付いただきますようお願いいたします。ただし、書評として取り上げるかどうかは、編集委員会の判断によります。

問い合わせ・申込み先：ロシア・東欧学会 会誌編集委員会

〒239-8686 横須賀市走水1-10-20 防衛大学校外国語教育室 角田安正 研究室気付

E-mail : tunoda@nda.ac.jp

# 2013 年研究大会 津田塾大学にて実施

2013 年度 (第 42 回) の研究大会は、10 月 5 日(土)・6 日(日) に津田塾大学小平キャンパス (東京都小平市) にて実施されました。研究大会は JSSEES と合同で実施されるとともに、JSSEES の大会開催校が担当しました。本研究大会開催にあたっては、大会開催校の吉岡理事に多大なるご尽力をいただきました。

## 1. 共通論題「ロシア・東欧における人と生活、境界線」

### (1) 第 1 セッション 研究報告

本年の研究大会は、文学、言語学、経済学の分野において現在の日本でもっとも注目される三人の研究者による「境界」を共通概念とした報告で口火を切った。各人はすでに次年度の会誌のために推敲を重ねた論文を提出済みだと思われるし、対論者の望月氏も書面でコメントを寄せ三本の報告を手際よく紹介しているので、題名や論点の重複記述は省き、もっぱら司会者の当日の主観的印象を書かせていただくことにする。

私個人はここ何年か北大スラブ研究センターの「ボーダー・スタディーズ」のグループと深く関わってきたので、司会役を打診されたとき二つ返事で承諾した。クーンの「パラダイム転換」はもはや古道具屋の棚におかれたホコリまみれの陳列品同然かも知れないが、私自身は自分の研究視点と立ち位置がシフトしたのを実感して、「境界」という概念に遅ればせながら「パラダイム転換」の手応えを感じてきた。司会席から三つの報告を聞きながら、三者三様にこの概念を巧みに操ってみごとな論を展開するものだと、深い感動を覚えた。

最初に沼野氏が登壇して、「単一思考」派と目 (揶揄?) されるソルジェニーツィンとミハルコフの言説を分析しながら、それがロシアというそれ自体きわめて多元的な現実への立ち向かい方のひとつであることを的確に抽出したように思われた。ロシア内部の無数の境界線の向こうにいる「内的他者たち」をこちら側へ引き寄せるしかないという、「長兄」たろうとするものたちこそが、むしろ「追い詰められた」存在なのではないかという印象を抱いた。三谷報告で紹介された 3D 的クロノ・トポスとしてのボスニアは、「境界」の持つ 3 つの本性を極めて明示的な現実として実感できた。三谷氏のご自身の文学作品翻訳が言語学者の「てすさび」にすぎないかもしれないと謙遜されていたが、ぜんぜんそんなことはない。天賦の文学センスをお持ちだといって過言ではない。さて最後の報告者の堀江氏は、極東における中国人の存在を「ディアスポラ」と名付けずにはおられないロシア人の「意識下」の心象を、「メタファー」という社会科学とは縁遠い概念を使って、うまく学際的越境をはたしたものだと言った。

望月氏は三者の報告を簡潔に特徴付けるコメントを披瀝し、最後に各一問の質問をした。メモするのを忘れたので遺漏があるかも知れないが、フロアーからはヨコタ村上、小森田、羽場、岩田の各氏からつつこんだ質問がなされたが、これに対する報告者の回答はうまくかみ合っていたように思われた。

最後にタイム・キーパーとしての司会者の立場から一言。どの報告も内容が多彩だったので、事前にペーパーが公表済みだったとはいえ、いかにも制限時間が短かった。せめてあと五分ずつ延長してあげられたらと思った。

(司会：木村崇 京都大学名誉教授)

### (2) 第 2 セッション パネル・ディスカッション

第二セッションでは、五十嵐徳子 (天理大学) 氏の「ロシアにおける人と生活、境界線のジェンダー—少子高齢化から見—」、加藤有子氏 (東京大学) の「ポーランド・ウクライナ国境地帯の文学・美術と境界—ユダヤ人の動きを軸に—」、蓮見雄氏 (立正大学) の「欧州におけるエネルギーのパラダイムシフトとロシア東欧の選択—分散ネットワークシステムへの移行と境界線・生活の変化?」、羽場久美子氏 (青山学院大学) の「境界線をめぐる西と東のゼノフォビア」という四本の報告がなされた。第一セッションは「人と生活、境界線」という

問題を、マクロの視点で、総合的に語ったような発表であったのに対して、第二セッションは各論にあたる発表をまとめたもの、すなわち、第一セッションの発表をミクロの視点、生活者の目線で語ろうとするものであった。それは典型的にはロシアにおける老齢介護の問題という、非常に珍しい、したがって貴重な話題を提供した五十嵐報告に現れていた。加藤報告はポーランドの国境の変化に伴って、ユダヤ人問題がどう変化していったかということを手短かに説明した。蓮見報告は、ヨーロッパがエネルギー問題において、いかに脱境界的な戦略を取り、それが成功したかをデータをもとに説得力をもって論じた。羽場報告は均質化と民族主義という二つの拮抗するベクトルが存在する中でなぜゼノフォビアが深化しているのかということを経典史を振り返りつつ論じた。発表のあとの議論も活発で、蓮見氏が提示する、境界を越えたエネルギー共同体というイメージと、羽場氏の提示する、ゼノフォビアで引き裂かれたヨーロッパという二つの像が矛盾するのではないかという質問などが出され、発表者がそれに応じていた。

(司会：ヨコタ村上孝之 大阪大学)

## 2. 自由論題

### (1) 分科会1

「文学・文化・国際関係」の領域にあてられた分科会1では、20世紀のロシア文学についての2つの報告と、日欧の移民政策についての報告が行われた。いずれも大学院在学中か、大学院修了後、間もない若い研究者によるものであり、視野の広さという点では物足りなさを感じさせたものの、新しい世代による今後のロシア・東欧研究の発展を予感させるものであった。

生熊源一(北海道大学大学院)の報告「二つの『カシーラ街道』——A. モナストウイユスキイの創作における世界把握の変質——」は、これまでモスクワ・コンセプチュアリズムという大きな枠の中で論じられてきた芸術家の独特な世界観、特に時間観を論じることで、今後の発展を期待させた。討論者の村田真一(上智大学)からはコンセプチュアリズムについての全般的かつ緻密なパースペクティブが提示され、その後の質疑応答を豊かなものにした。

古川哲(共立大学非常勤)の報告「『エーテルの道』から『ジャン』へ：1920~30年代のプラトーフ作品における人間像の変化をめぐって」は、プラトーフ作品における人間と自然との関係を論じながら、受動的な人間像が成立するに至った過程を明らかにしようとしたものである。報告が長時間に及んだため、十分な質疑応答の時間を確保することができなかったが、座長と討論者を兼ねた岩本も含め、より大きな文脈の中で主題を論じるべきではないか、という趣旨の質問が続いた。

Lucia Kováčová(青山学院大学大学院)の報告“The comparison of refugee resettlement policy in Japan and Europe”は、日本と比較しながらチェコの難民政策を論じたものであった。討論者の福田宏(京都大学)からはヨーロッパにおける難民や移民の現状についての、きわめて具体的な質問が提示された。国境を越えた民族の移動や衝突はきわめてアクチュアルな問題であり、分科会1の中でもっとも活発な質疑応答がなされたのが、この報告であったことも指摘しておきたい。

(座長：岩本和久 稚内北星学園大学)

### (2) 分科会2

分科会2では、経済と社会に関する4つの自由論題報告が行われた。

第1報告は、道上真有氏(新潟大学)の「ロシア都市住宅の市場経済化の現状と課題：『住宅貧乏都市モスクワ』を中心に」であり、ここでは、報告者自らの居住環境に関するインタビュー調査の結果に基づき、ソ連時代の住宅ストックの流通市場の問題点とその要因、さらには市場経済化の中で生じた住宅問題について、報告者自らの経験をも織り交ぜてまとめられていた。

第2報告は、小西豊氏(岐阜大学)の「ロシアにおける障害者の職業訓練と雇用問題—インクルーシブな社会を目指しているのか—」であり、市場経済化の中で障害者がいわば労働法規の保護対象から外されている現状を具

体的に明らかにすると共に、障害者の職業訓練、就職、社会での「居場所」などの問題について、その実態を明らかにしている。そして、こうした分析結果に基づいて、報告者は「ロシアは障害者に住みよいか」との問題を提起されている。

第 3 報告は、小山洋司氏(新潟大学名誉教授)の「スロヴェニアのサクセス・ストーリーとその落とし穴」であり、体制転換以降、中東欧のポスト社会主義諸国の中で優等生として評価されてきたスロヴェニアが、2005 年～2008 年の「ブーム期」を経て、以下に危機に陥ったのかについて、国内外に係わる資金循環図式を基軸としてその現状と要因を明らかにしている。その際、報告者は、銀行資産管理会社 BAMC の設立によって銀行システムが救済されたとしても、銀行そのものが国際資金市場において低利で借入れを行い、国内企業にその資金を積極的に貸し付ける、というスロヴェニアのサクセス・ストーリーの要とも言える資金循環図式の問題点を明らかにしている。

第 4 報告は、藤井陽一氏(元西南学院大学大学院)の「フルシチョフ憲法草案(1962-64)起草の背景と過程—人権と民主主義の観点から—」であり、フルシチョフ憲法草案がどのような背景の下に、誰の主導の下に、どのような内容を有していたのかを明らかにすると共に、いわゆる「ブレジネフ憲法」とどのような点に相違が見られるのかを説明しようとしている。その際、報告者は、人権と民主主義の観点からこうした諸点について整理と分析を試みようとしていた。

以上の報告を総覧すると、4 つの報告はいずれもわが国における研究内容として新たな分野を切り開こうとするものであり、今後の研究のさらなる進展を強く期待したい。

(座長：家本博一 名古屋学院大学)

### (3) 分科会 3

分科会 3 では、政治・外交問題について 4 人の若手研究者が斬新な切り口による報告を行い、的確な討論と活発な質疑が加わって、極めて有意義な分科会となった。

第 1 報告、大崎巖氏(立命館大学大学院)による「現代ロシアにおける『南クリルの問題』が果たす政治的機能—第 2 期プーチン政権期を中心に」は、ロシアから見た「北方領土問題」を考察する重要性を指摘し、現代ロシアにおいて「大祖国戦争」や「第二次大戦勝利」の一部としてこの問題が果たす機能を、ロシアの国民意識を踏まえながら明らかにした。これに対して、相手のロジックを踏まえて研究することは重要であるが、国民意識と実際の日ロ交渉は区別して検討するべきであるとの指摘が行われた。

第 2 報告、油本真理氏(日本学術振興会特別研究員 PD)による「現代ロシアの政治変容と地方—沿ヴォルガ地域における圧倒的一党優位の成立過程 1991—2011」は、2001 年の「統一ロシア」の結成により政権与党が政治空間を独占する「圧倒的優位状況」が出現したが、地方レベルの状況を見ると権威主義化という図式に当てはまらない多様性がみられたことについて、沿ヴォルガ地域を事例に明らかにした。これに対して報告内容を評価しつつも、「圧倒的優位状況」を政治システム論と関連付けて説明する必要があるという指摘が行われた。

第 3 報告、西山美久氏(日本学術振興会特別研究員・九州大学大学院)による「プーチン体制下における政治動員—選挙マシーンとしての官製青年組織『ナージ』」は、旧ソ連圏で起こった「カラー革命」を契機に設立された「ナージ」の役割を考察し、従来の研究ではこの組織が政権によって利用されてきた側面のみが注目されてきたが、実際には組織内には多様な目的をもつ若者が存在していることを明らかにした。これに対して「ナージ」が 2007 年 12 月の下院選挙で「統一ロシア」の得票結果にどのような役割を果たしたかを論証する必要があるという指摘が行われた。

第 4 報告、加藤美保子氏(北海道大学専門研究員)による「ロシア・ベトナム戦略的パートナーシップの分析—2000 年以降を中心に」は、1990 年代半ばにはロシアの東南アジア諸国に対する関心は低下していたが、2010 年 11 月以降ロシアとベトナムの関係が多面的に発展していることを明らかにした。これに対して、中国など第三国の要因が二国間関係にどのように影響しているかを検討する必要があるという指摘が行われた。

(座長：小澤治子 新潟国際情報大学)

# 地域研究学会連絡協議会 (JCASA) ニュースレターより

## ロシア・東欧学会 2013 年活動報告

### 1. 2013 年度の研究大会

2013 年度 (第 42 回) の研究大会は、2013 年 10 月 5 日(土)・6 日(日)の両日、JSSEES (日本スラブ東欧学会) との合同大会として、JSSEES 側の大会開催校である津田塾大学小平キャンパス (東京都小平市) にて実施された。「ロシア・東欧における人と生活、境界線」をテーマとした共通論題は、第 1 セッションの研究報告と第 2 セッションのパネル・ディスカッションの二部構成となり、若手からベテラン会員まで総勢 10 名が登壇する豪華な布陣となった。自由論題報告も、例年通り、政治・外交、経済・社会、文学・文化の各領域から成る 3 つの分科会で構成され、計 11 件の研究報告が行われた。自由論題報告を行う若手会員への旅費等の助成が継続されたことから、今年も多くの若手会員からの応募があった。学際的な地域研究学会ならではの多彩なテーマが取り上げられ、討論者・フロアーとの間で活発な質疑応答が行われた。

### 2. 会則・会費規程の見直し

長年の懸案事項であった会則・会費の見直しが、2013 年度の総会で承認され、実態に即し、よりシンプルかつ合理的な運営体系となった。まず、形骸化している「正会員」、「賛助会員」を廃止し、「法人会員」を規定することで、「会則」と「会費規定」の整合性が図られた。「シニア会員」、「院生会員」の名称と定義に難があることから、これらの会員区分の呼称を止めて、「個人会員」、「法人会員」に統一した。また、収入超過の状況が続いていること、退職者および専任職を持たない若手会員の退会が増加していることから、会費に関しては、退職者および専任職 (任期制を含む) を持たない会員は年会費を半額とした。

### 3. 他学会との提携強化

ロシア・スラブ系の学界が複数にまたがっていることから、合同研究大会で協力関係にある JSSEES との提携関係を強化する方針が打ち出されている。将来的な統合を視野に入れて、両学会の執行部間において意見交換が進められており、次期総会にて会員の総意を確認した上で、統合に向けたワーキング・グループを結成して、JSSEES 側との協議を本格化する予定である。

### 4. ICCEES (国際中・東欧学会) 世界大会

ICCEES (国際中・東欧学会) 世界大会が、2015 年 8 月 3 日～8 日に神田外国語大学 (千葉県幕張市) で開催される。ロシア・東欧学会では、専任職を持たない若手会員が報告を行う場合、登録料の 9 割と旅費 (上限 5 万円) を補助することで、若手会員が国際学会で報告することを積極的に奨励する方針である。

### 5. 2014 年度の研究大会

2014 年度の研究大会は、引き続き、JSSEES との合同大会となり、岡山大学で 2014 年 10 月 4 日 (土)、5 日 (日) に開催される予定である。

(ロシア・東欧学会事務局長 兵頭慎治)

※地域研究学会連絡協議会 (Japanese Council of Area Studies Associations) は、地域研究の発展に寄与し、相互交流や必要な提言を行うことを目的として、本学会を含む関連する 20 の地域研究学会が加盟しています。詳しくは、同協議会ウェブサイト (<http://www.jcas.jp/asjcasa/index-j.html>) をご参照ください。

## 最近の理事会・総会の議事録より

### 1. 2013 年度第 2 回理事会

日時：2013 年 10 月 5 日（土）11:30～13:00

場所：津田塾大学 7201 教室

#### 1. 学会事務（兵頭事務局長、防衛研究所）

- (1) ニュースレター第 26 号および会員名簿が 9 月上旬に発行されたことが報告された。
- (2) 2013 年度予算案が承認され、宇多会計監事より監査報告が行われた。
- (3) 入会希望者（2 名）、退会希望者（1 名）が承認された。

#### 2. 研究奨励賞の選考（伊東選考委員長、早稲田大学）

選考委員会による慎重な審査の結果、本年度は該当者なしという結論に至った旨が報告され、選考結果が了承された。また、選考委員から、選考方法に関して問題提起が行われた。

#### 3. 会誌編集委員会報告（角田編集委員長、防衛大学校）

会誌第 42 号(2013 年版)の編集状況が報告された。

#### 4. 会則・会費規程の見直し（小森田ワーキング・グループ長、神奈川大学）

事務局案を一部修正する形で、ワーキング・グループによる修正案が提示され、了承された。

#### 5. 学会フェイス・ブック（ヨコタ村上広報委員、大阪大学）

学会フェイス・ブックの立ち上げが報告された。

#### 6. 2014 年度研究大会（田口理事、岡山大学）

岡山大学で 2014 年 10 月 4 日（土）、5 日（日）に実施することが承認され、大会開催校の田口理事より会場準備を開始することが報告された。

#### 7. その他

2015 年の ICCEES 幕張大会における参加料支援に関して、専任職を持たない若手研究者が報告を行う場合には参加料の 9 割を補助する方向で、事務局が原案を作成することが了承された。

藤本理事より、8 月に大阪経済法科大学で第 5 回スラブ・ユーラシア研究・東アジア・コンファレンスが成功裏に実施されたことが報告された。

羽場理事より、日本学術会議会員の選考について報告がなされた。

上野代表理事より、JSSEES との今後の提携関係につき、将来的な統合を視野に入れて執行部間において意見交換を進めていくことが提案され、了承された。

### 2. 2013 年度総会

日時：2013 年 10 月 5 日（土）17:20～17:40

場所：津田塾大学 5101 教室

#### 1. 予算・決算の承認

- (1) 2012 年度決算に関し、兵頭事務局長（防衛研究所）より、当初予算に比べて大幅な支出減になったことが報告され、承認された。
- (2) 宇多会計監事より、2012 年度の会計業務および財産状況を厳正に監査した結果、いずれも問題ないことが報告された。
- (3) 2013 年度予算案に関し、兵頭事務局長より説明がなされ、承認された。

2. 会誌編集委員会

角田編集委員長（防衛大学校）より、学会誌『ロシア・東欧研究』の刊行・編集状況が報告された。

3. 会則・会費規程の改訂

兵頭事務局長より、会則・会費規程の見直し理由、理事会およびワーキング・グループにおける検討結果が報告され、原案の通り、会則・会費規程を改訂することが承認された。

4. 研究奨励賞の選考

伊東選考委員長（早稲田大学）より、選考委員会による慎重な審査の結果、本年度は該当者なしという結論に至ったことが報告された。

5. 2014年研究大会

兵頭事務局長より、JSSEES との合同大会が継続され、2014年10月4日（土）、5日（日）に岡山大学で実施することが報告された。

### 3. 2013年度第3回理事会

日時：2014年3月1日（土）14:00～16:30

場所：上智大学2-510教室

1. 2013年合同研究大会会計報告（兵頭事務局長、防衛研究所）

JSSEES 側の大会開催校（津田塾大学）による、2013年合同研究大会の収支決算が報告された。

2. 会誌編集委員会報告（角田編集委員長、防衛大学校）

（1）会誌第42号（2013年版）の編集状況が報告された。

（2）研究奨励賞の候補論文が了承され、研究奨励賞の選考委員として、藤本和貴夫理事（委員長、大阪経済法科大学）、家本博一理事（名古屋学院大学）、杉浦史和理事（帝京大学）、林忠行理事（京都女子大学）、村田真一（上智大学）が選任された。

3. 事務局報告（兵頭事務局長、防衛研究所）

（1）2013年度の間決算が報告された。

（2）入会希望者（1名）、退会希望者（1名）が了承され、3カ年会費未納により2013年度末にて退会扱いとなる会員（13名）が報告された。

（3）若手研究者奨励基金の執行状況が報告された。

（4）常勤職（任期制を含む）を持たない若手会員が、ICCEES 幕張大会のパネルやラウンドテーブルで司会、報告、討論を行う場合、登録料の9割および旅費・宿泊費（上限5万円、バック旅行使用可）を支援することが承認された。

4. 2014年度研究大会（10月4日・5日）

（1）大会開催校である岡山大学の田口理事から、会場確保などの準備状況が報告された。

（2）共通論題を研究報告とパネル・ディスカッションの2部形式とし、「ロシアとEUの狭間で揺れる旧ソ連・東欧諸国（仮）」をテーマとすることが了承された。

（3）企画委員として、六鹿理事（委員長、静岡県立大学）、志摩理事（昭和女子大学）、田口理事（岡山大学、大会開催校）、兵頭理事（防衛研究所、事務局）、松里理事（北海道大学）が選任され、報告者の人選を含む企画案を企画委員会に一任することが了承された。

5. 2015年度研究大会

ICCEES 幕張大会と重なることから、開催時期を遅らせて、上智大学で実施する方向で検討していくことが了承された。

6. その他

JSSEES との統合に関して、次期総会にて会員の総意を確認した上で、ワーキング・グループを結成してJSSEES 側と協議を開始することが了承された。



## 新入会員(敬称略、申し込み順)

氏名	所属	専門分野	推薦者(署名順)	
笠原孝太	日本大学国際関係学部	日ソ・日露関係史	石郷岡建	大西富士夫
有泉和子	東京大学史料編纂所	国際関係、日露関係史	横手慎二	沼野充義
生熊源一	北海道大学文学研究科	現代ロシア芸術	望月哲男	石川晃弘
吉村貴幸	青山学院大学大学院	現代ウクライナ政治	羽場久美子	兵頭慎治
菅原祥	日本学術振興会特別研究員(PD)	社会学、映画研究	上野俊彦	兵頭慎治
松尾彩香	上智大学大学院	現代ロシア政治	上野俊彦	兵頭慎治
木本麻希子	神戸大学大学院	近現代ロシア音楽	溝端佐登史	吉井昌彦
ウグル・アルトゥン	北海道大学大学院	近代日本史	松里公孝	兵頭慎治

## 2013年度決算(2014年4月1日現在)

収入の部			
	予算	決算	
前年度繰越金	8,273,393	8,273,393	
会費	一般会員	2,380,000	2,605,000
	シニア会員	150,000	185,000
	院生会員	150,000	136,000
	法人会員	80,000	80,000
雑収入(学会誌広告料、利子、寄付など)	80,000	85,139	
当年度の収入合計	2,840,000	3,091,139	
収入総計	11,113,393	11,364,532	
支出の部			
若手研究者奨励基金(注)		135,640	
研究大会開催費	350,000	280,481	
学会誌発行費	800,000	782,250	
広報費(ニューズレター発行、HP管理費)	100,000	109,200	
事業費(JCREES、JCASA等の分担金)	40,000	35,000	
事務局費(事務用品、電子ジャーナル化)	200,000	144,845	
会議補助費(理事会等の交通費)	800,000	558,220	
郵送料(学会誌、大会案内等の送付)	100,000	82,387	
振込手数料(年会費納入、銀行振込)	50,000	39,775	
予備費(会員名簿作成、理事会会場借上費)	400,000	230,520	
当年度の支出合計	2,840,000	2,398,318	
次年度への繰越金	8,273,393	8,966,214	
支出総計	11,113,393	11,364,532	

注 若手研究者奨励基金は2010年度より100万円を予算から別立て。現在の残高451,510円。

## ICCEES 世界大会の登録料・旅費の補助決定

ICCEES（国際中・東欧学会）世界大会が、2015年8月3日～8日に神田外国語大学（千葉県幕張市）で開催されます。ロシア・東欧学会では、専任職を持たない若手会員が報告を行う場合、登録料の9割と旅費（上限5万円）を補助します。今後、ロシア・東欧学会に入会を申し込まれる方も対象となります。申請方法などの詳細は、学会ウェブサイトにてお知らせする予定です。申請の際には、登録料の払込の控えが必要となります。

## 事務局からのお知らせ

### 1. 年会費納入のお願い

2014年度年会費のご案内を送付させていただきました。お早目の納入をお願い申し上げます。送付しました払込取扱票を使用して郵便局でお支払いの場合、払込手数料は学会負担となります。受領証は、払込を証明するものですので、大切に保管してください。ゆうちょ銀行以外の他行（海外を含む）からご送金いただくことも可能です。その場合は、送金口座番号が異なり、手数料が必要となりますのでご了承ください。

### 2. 年会費の改訂

前回の総会で承認された通り、本年度より年会費が改定されます。5000円に減額される対象者が、従来は、大学院生と70歳以上の退職者に限られていましたが、退職者および専任職（任期制を含む）を持たない全ての会員に対象が拡大されます。なお、2013年度までの未納分に関しては、新しい年会費は適応されません。

**年会費：法人会員 20,000 円、個人会員 10,000 円**  
**退職者や専任職（任期制を含む）を持たない会員 5,000 円**  
**JSSEES、ロシア文学会、ロシア史研究会に同時加入する大学院生 4,000 円**

### 3. 会則・会費規程の見直し

「正会員」、「賛助会員」、「シニア会員」、「院生会員」の呼称を止め、「個人会員」、「法人会員」に統一します。また、「院生会員」の廃止とYahooグループのサービス終了に伴い、院生幹事および院生会員向けのメーリング・リストも終了します。今後は、学会フェイス・ブックおよびウェブサイトを通じた情報発信を強化します。

<編集後記>ロシアによるクリミア編入を受けて、今年の研究大会では、ウクライナ危機のグローバルな影響について共通論題で取り上げます。多数の皆様のご参加を期待しております。（兵頭）

ロシア・東欧学会ニュースレター 第28号（2014年5月発行）

《発行》ロシア・東欧学会事務局 事務局長 兵頭慎治 広報委員 岡田美保

郵便物送付先：〒153-8648 東京都目黒区中目黒 2-2-1 防衛研究所 兵頭慎治研究室気付  
E-mail：jarees\_office@yahoo.co.jp HP：http://www.gakkai.ac/roto/  
ゆうちょ銀行（加入者名：ロシア・東欧学会）：  
郵便局での払込：00150-8-177731 他行からの送金：019 店 当座預金 0177731